

## 6. 学術情報センター

学術情報センター長	南沢 享 (細胞生理学講座)	(平成28年4月から)
学術情報センター図書館国領分館長	内田 満 (看護学科)	(平成29年4月から平成31年3月まで)
学術情報センター標本館委員会議長	橋本 尚詞 (解剖学講座)	(平成20年4月から)
学術情報センター国際交流センター長	芦田 ルリ (国際交流センター)	(平成29年4月から)

### 1) 平成30年度統計 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

#### (1) 図書館

① 蔵書冊数	262,662冊
② 現在受入雑誌数	656種 (和566種、洋90種)
③ 電子ジャーナル提供数	8,518種
④ 館外貸出冊数	8,521冊
⑤ 入館者数	85,301人
⑥ 他学との文献相互貸借数	貸出1,576件 借受2,226件
⑦ 複写サービス	31,112枚 (代行複写、相互貸借(他館への提供)、 附属病院へのFAX送信、セルフコピーの合計)
⑧ 情報検索サービス	109,421件 (代行とセルフサービスの合計)

#### (2) 国領分館

① 蔵書冊数	92,204冊
② 現在受入雑誌数	237種 (和194種、洋43種)
③ 館外貸出冊数	6,964冊 (視聴覚資料含む)
④ 複写サービス	336件 (西新橋・葛飾・柏・相互貸借(他館) 分のFAX送信)
⑤ 予約受付件数	161件 (業務87件、OPAC74件)

#### (3) 標本館

① 所蔵標本数	マクロ標本	1,824点
	顕微鏡標本	2,549点
② 所蔵視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,915セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mmフィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	76セット
	語学プログラム	206セット
	その他	79セット
③ 見学者数		905名 (学内255名、学外650名)

#### (4) 史料室

① 所蔵史料	3,162点
② 見学者数	90名 (学内15名、学外75名)

#### (5) 写真室

① 撮影・スライド作成	125件 (5,380枚)
② ビデオ編集	61件 (255.5時間)
③ カラープリント出力 (ポスター作成含む)	593件 (11,394枚)
④ 35mmスライドのデジタル化	8件 (2,331枚)

(6) 国際交流センター

- ① 海外選択実習 派遣 協定校 医学科 18名(男子11名、女子7名)  
(米国6、英国5、ドイツ3、台湾2、シンガポール、タイ各1)  
看護学科 1名(女子1名)(英国1)  
協定校外 医学科 1名(男子1名)(米国1)  
受入 138名(男子69名、女子69名)  
(英国33、オーストラリア21、台湾19、ニュージーランド15、ドイツ13、フィリピン10、インドネシア7、マレーシア、韓国各4、ポーランド、シンガポール、タイ各2、他6)  
(消化器外科・肝胆膵外科、麻酔科各17、救急科16、皮膚科13、腎臓・高血圧内科12、小児科、脳神経外科各11、産婦人科10、放射線科、血管外科各7、消化器・肝臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科各6、整形外科、泌尿器科各5、形成外科、耳鼻咽喉科各4、呼吸器外科、小児外科、眼科、内視鏡科各3、心臓外科2、他3)
- ② International Cafe (海外からの選択実習生と本学学生、教職員との交流会)  
開催：44回、参加者(のべ)：実習生506名、本学学生228名、教職員他120名
- ③ 医学科学生の英語医療面接実習  
開催：1年生 2回、4・5年生 6回
- ④ 看護学科学生の英語医療面接実習  
開催：3年生 2回

2) 主な事項

(1) 教育・研究年報に関すること

- ① 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2017(第37号)』および『Research Activities 2017』の編集  
両年報の編集作業を担当した(両年報とも12月1日発行)。

(2) 図書館システムの管理に関すること

- ① 図書館システムの運用  
インターネット上で図書の予約や延長を行うことができるマイライブラリ機能の利用を4月から開始した。また、10月からサイネージ機能を利用し、図書館入り口のモニターにお知らせを流している。

(3) 図書・雑誌等の情報管理、情報サービスに関すること

- ① ネットワークを介した情報提供  
電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス(AutoAlertサービス)を引き続き実施している。また、新聞4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービス(平成16年12月開始)も継続した。
- ② リモートアクセスサービスの提供  
大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外(自宅や派遣先)からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」(平成21年度開始)の利用者登録とサポート作業を行った。平成30年度の新規登録者は315名で、平成30年度末までに利用登録者は3,188名となった。
- ③ 医学部学生および大学院生の演習の担当  
医学科1年生の「情報検索演習」、2年生の「医学総論」、医学科3年生「医学統計学Ⅱ演習」、看護学科1年生の「総合演習」、看護学科3年生の「研究方法論:文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーション、大学院医学研究科看護学専攻修士課程1年生への演習を担当した。

(4) 利用者支援・指導に関すること

① 教職員等を対象とした情報検索演習

教育センターによる附属4病院の在職看護師を対象とした「エデュケーションナース研修」（9月7日）と東京慈恵会による学外の看護教育関係者を対象とした「教務主任養成講習会」（6月18日）で情報検索演習を担当した。また、教職員を対象としたデータベース講習会を2回実施し、延べ63名の参加があった。また、研修医シミュレーション研修の情報検索演習を担当した（11月17日）。さらに、診療支援ツールUpToDateの広報活動を積極的に行い、柏病院（7月27日）や第三病院（9月27日）でヘルプデスクを実施した。なお、情報システム統括委員会の了承を得て、業務用スマートフォンでのUpToDateのアプリケーションの利用が可能となった。

② 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による以下の講習会の開催を担当した。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。

- ・「〈論文が書ける〉研究者になるために実践すべき日々の戦略」（5月10日）（参加86名）  
加藤総夫教授（神経科学研究部）
- ・「魅力的な研究と論文発表の要点」（5月17日）（参加67名）  
吉田博教授（臨床検査医学講座）
- ・「How to Write Case Reports」（5月24日）（参加63名）  
岡崎真雄教授（学術情報センター医学英語研究室）
- ・「Key Aspects of Formal Academic Writing in Science and Key Language Points in Research Paper Writing」（5月31日）（参加59名）  
小原平教授、ジョン・スーリア講師（英語研究室）  
（開催時間は、いずれも18時～19時30分）

(5) 総合展示に関すること

① 総合展示の開催

以下4テーマの展示の提供をいただき、1月21日～2月1日に大学1号館ロビー、高木2号館地下1階ロビーにて開催した。

「がん免疫療法の進歩と変遷」

本間 定教授（総合医科学研究センター 悪性腫瘍治療研究部）

「痛風を起こすだけではない高尿酸血症＜高尿酸血症と腎疾患・心疾患の関連＞」

大野岩男教授（内科学講座（総合診療内科））

「臨床と研究と；伝統の卵巣腫瘍を通じて」

磯西成治教授（産婦人科学講座）

「放射線治療による局所制御に“Total Cell Kill”が必要か」

関根 広教授（放射線医学講座）

(6) 画像データ等コンピュータ・サービスに関すること

① 教材・研究資料の作成支援

学内教職員・学生、同窓生を対象に、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。

(7) 学術リポジトリに関すること

① 学術リポジトリの運用

学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開するためのシステムである学術リポジトリの運用を担当している。『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『Research Activities』の最新の内容を登録し、インターネット経由で参照できるようにした。また、学事課との協力により学位論文要旨に加え、主論文の学術リポジトリによるインターネット公開を行った。平成30年度の

学術リポジトリへの登録件数は472件であった。利用状況は閲覧699,552件であった。なお、学術リポジトリ運用は、学内サーバの利用を中止し、オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所が共同運営するクラウドシステムであるJAIRO Cloudに移行した。

② 学位論文の著作権調査

学位論文に係る著作権処理は問い合わせ先が編集室（図書館内）に指定されている。学術リポジトリを介した公開を定めた学位規則改正後（平成25年4月1日以降）平成29年度末（平成30年3月31日）までに授与された学位304件（甲139件、乙165件）について、主論文の著作権調査を終えた。平成30年度からは学位審査と並行して著作権調査が進められる手順とし、甲25件乙30件について調査を行い問い合わせに応じた。

(8) 広報活動支援に関すること

① 広報活動支援業務

学内行事および広報用の写真撮影、画像データの保管・提供を担当した。

(9) 国際交流センターに関すること

① 海外からの選択実習生の受入れ

海外医科大学からの選択実習生の受入れは、平成30年4月～平成31年3月の期間で138名（男子学生69名、女子学生69名）であった。なお、毎週月曜日に選択実習生と本学学生、教職員との交流会（International Café）を開催した。

② 医学科学生の英語医療面接実習の実施

医学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語医療面接実習を実施した。

・オープンキャンパス英語医療面接実習

8月13日（1年生5名参加）、8月14日（1年生5名参加）

・海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－医学科 第1回セッション

10月20日（5年生17名参加）※講義・練習：10月6日

10月27日（5年生16名参加）

・海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－医学科 第2回セッション

12月1日（5年生15名参加）※講義・練習：11月17日

12月8日（5年生16名参加）

・海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－看護学科

2月5日（3年生11名、2年生2名参加）、2月25日（3年生11名参加）

③ 海外実習・留学支援セミナーの開催

10月3日に第4回海外実習・留学支援セミナーを開催した。41名の参加があった（学生14名・教職員27名）。

④ 学術発表（海外選択実習成果報告会）の方法に関する講習会の開催

9月30日に岡崎真雄教授による学術発表（海外選択実習成果報告会）の方法に関する講習会を開催した。

⑤ 後輩向け海外課外実習体験発表会の開催

9月29日に平成30年度後輩向け海外課外実習体験発表会を開催した。

⑥ 海外選択実習成果報告会の開催

12月8日に平成30年度海外選択実習成果報告会を行った。平成30年度海外選択実習生19名の報告の審査結果を教学委員会に報告の後、学長から優秀賞が3名に授与された。

⑦ 危機管理セミナーの開催

12月25日に海外実習予定者のための危機管理セミナーを開催した。

⑧ 第2回慈恵-Mayo Clinic ジョイントシンポジウムの開催

9月22日に開催され、事務局を担当した。以下6名の演者による講演があった。

Dr. Eddie L. Greene (Mayo Clinic) / 横尾 隆教授（内科学講座）

Dr. Craig E. Daniels (Mayo Clinic) / 反田篤志先生（McKinsey & Company）

Dr. Andrew D. Badley (Mayo Clinic) / 大木隆生教授（外科学講座）

- ⑨ 米国 Mayo Clinic・ニューマン博士のシミュレーション実習の開催  
3月18日～19日に開催し、延べ11名の参加があった（3月18日：学生4名、研修医2名、3月19日：学生3名、研修医2名）。
- ⑩ 「IELTSセミナー」「TOEFL iBTテスト スキルアップセミナー」の開催  
12月17日にIELTSセミナーを開催した。また、12月10日にTOEFL iBTテスト スキルアップセミナーを開催した。
- ⑪ 奨学金、助成金の支給  
海外での学習、発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。
- ・宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成 前期6名60万円 後期12名130万円  
国際交流センター運営委員会にて選考した候補者を教授会議に報告の上、学長により決定された。
  - ・学外研究員 平成28年度選考者1名153万円、平成29年度選考者1名365万円、平成30年度選考者1名4万円  
平成31年度学外研究員については、国際交流センター運営委員会にて選考した候補者と選考過程を学長に報告し、学長により決定された。
  - ・慈恵医師会海外選択実習奨学金 20名234万円  
希望者から国際交流センター運営委員会が選考し、教学委員会に推薦した。教学委員会は支給者を決定し、教授会議に報告した。
  - ・独立行政法人日本学生支援機構 平成30年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）  
8名70万円（派遣） 11名88万円（受入）  
協定校での選択実習希望学生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した（協定派遣）。また、協定校からの選択実習生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した（協定受入）。
- (10) その他学術情報に関すること
- ① Turnitin Feedback Studio登録受付開始  
オリジナルライティングの教育支援ツールであるTurnitin Feedback Studio(ターンイットイン・フィードバック・スタジオ)は、平成28年11月1日に導入され、医学科・看護学科の講義で利用されていた。7月17日より学内教員個人の登録受付を開始した。平成30年度は67名の登録申し込みがあり、学内教員に該当しなかった2名、重複申込だった2名を除き63名を新規登録した。
  - ② オープンサイエンスセミナーの開催  
1月15日に、以下の内容で開催した。  
「データ管理と大学 ～現状と課題～」尾城孝一氏（国立情報学研究所）  
「粗悪雑誌への対応について」（当センター 担当者）
  - ③ 「東京慈恵会医科大学130年史（平成23年度発行）」関連の業務  
掲載内容に関する問い合わせへの対応、130年記念事業寄付者へ送付確認作業を担当した。
  - ④ 西新橋再整備計画「図書・講堂スモールワーキンググループ（SWG）」への参加  
平成26年度から引き続き図書・講堂SWGに参加した。なお1月から、高木会館減築・耐震補強工事が開始された（2019年9月終了予定）。